

ねんりんピック富山 2018 囲碁交流大会出場記

2018.11.15

中嶋 正市

1.ねんりんピックと茨城県代表選出

ねんりんピックは、60歳以上の人のみが参加できる全国大会です。国体のシニア版と言えるでしょう。毎年各県が持ち回りで開かれ、国や県などが主催です。31回目の今年は、11/3～6の4日間、スポーツ22種目と文化5種目での交流大会が富山県各地で開かれました。各都道府県の日本棋院支部連合会が代表選出の大会を開くなどして、男子2名女子1名の選手が選出され、全国大会の団体選手となります。茨城県では5/6に選手選抜の県大会が開かれ、16名で争われました。スイス方式で3連勝した私と山中氏が男子2名の代表に決まり、女子は紅1点の稲垣氏が県代表に選出されました。



写真1 茨城県の黄門チーム
左から、稲垣、中嶋、山中の各氏

2.大会会場の富山市へ

11/2は、茨城県選手団（監督、選手、事務局で152名）が、東京から新幹線など使い富山駅に到着後、バスを数台仕立てて、兼六園を見学した後、その晩は福井県に前泊しました。近くに宿があれば楽でしたが、遠方に宿泊せざるを得ませんでした。

11/3は、朝7時に旅館を出発し、富山市での開会式に臨みました。入場行進した後、聖火がともされ、鈴木大地スポーツ庁長官等の挨拶後、マスゲーム等も感動的でした。当日からは、競技ごとの宿泊となって、埼玉県と同部屋泊でした。さいたま市は政令都市で1チームの出場権を有するため、埼玉県からは2チームが参加しました。



写真2 開会式

3.囲碁交流大会での対局

11/4、5と2日間、各競技ごとに各地に分散しての試合となりました。囲碁は、上市町と日本一小さい舟橋村の2箇所で開催されました。私は舟橋村での対局でした。チーム3名が3ブロックに分かれて、1日に2試合、計4試合をスイス方式の個人戦として戦いました。日本棋院からは吉原由香里六段はじめ4名の方が来て、審判やら指導碁、交流と活躍していました。

私は4局とも偶然白番になって1勝3敗という結果となり、力が十分発揮できず残念でした。1局目は山形の選手との対局でしたが、私は地元新聞に載せるため依頼されていた棋譜と取るため、了解を得てiPadアプリでその都度棋譜を採りましたが、それが集中力欠如に繋がりました。対局時計もあるので、棋譜は対局後に作成すべきでした。相手はネットで打つことが多いとのことでした。隣が騒々しい中で、

2局目は滋賀の選手との対局で、隣の対局が割と大きな声で雑談しながら打っていたので、それが大分気になりました。後半に入ってもやまないもので、静かにとお願いしましたが改善しないので、私の対局相手が役員に耳打ちして、役員は注意せずしばらく、その近くにいたようです。隣が騒々しい中で、

滋賀の対局相手は百戦錬磨で、星（4の四）に私がコゲイマカカリ（6の三）したときに、カタツキ（7の四）するような手を相当研究して臨んで来ました。最後は自分の中央の白模様の中で生きられて、自分の石が7石となり、屈しました。相手は衛星打ち上げに関わる仕事でシステムエンジニアをされたりしているようでした。

3局目は東京都Bの選手で、接戦でしたが、惜敗となりました。どの局でもそうでしたが、対局後にめる碁会の話をして、PRをしてきました。相手の方は江戸川区囲碁連盟の方で、ネット碁では、マナーの悪い人がいたり、まとまった対局時間が取りにくいからと、める碁会の話にかなり興味を示してくれました。知人にも勧めながら入会したいとのことでした。電話とメールアドレスを交換して、大会後にも電話で話しています。4局目は実力差で60目以上の勝利を得ました。



写真3 聖火点火

4. 囲碁交流大会結果とツアー参加

表彰式が行われました。旅館で同室だった埼玉県勢は、埼玉県チームが優勝、さいたま市チームが第3位と素晴らしい結果を残しました。埼玉県チームの監督で、埼玉新聞の編集局囲碁担当や日本棋院埼玉県支部連合会事務局長などを行っている伊藤和由氏は、2年連続は出られないような仕組みにしている県府県が多い中、シニア大会を新たに開いて毎年出ても良い仕組みを整えたことが、成績アップに繋がったと話していました。東京のように希望者で出られる所もあるようです。

また、対局後、囲碁交流大会主催者が組んでくれたツアーで、立山連峰や劔岳を望みながら、近くの大岩山日石寺を参拝できました。平安期に岩盤に彫られたという不動明王に歴史と迫力が感じられました。



写真4 大岩山日石寺の不動明王

5・終わりに

今回の試合の結果からの反省としては、普段からの盤碁等で実戦慣れしておくことや集中力が重要だと反省させられました。今指導碁でお世話になっている加藤充志九段によると、める碁は技術力の勝負だが、大会の試合等は心理面が重要とのことでした。

4年前には、辞退者がいる中での繰り上げ選手として出場しました。そのときは、める碁会のパンフレットを、すべての囲碁出場者に配りましたが、今回は対局相手へのPRに留めました。しかし、2名以上の関心を示す人に出会えたことは一つの収穫でした。

富山県人の温かいおもてなしや全国の囲碁仲間との交流もでき、全5日となった旅も行った甲斐のあるものでした。わがめる碁会の会員の方々には、今後のねりんピック大会等への積極的な参加をお勧めしたいですし、そういう機会にPRして会員増へつながれば、なお喜ばしいことと思います。